

## 日本鳥学会 2022 年度書面総会で頂きましたご意見への回答

2022 年度書面総会の意見欄に記されたおもな質問等に下記の通り回答いたします。まずいただきました意見を記し、その意見に対する回答を記す形とします。なお、ご意見は極力そのまま記すようにはしていますが、事務局側で抜粋、要約もしています。ご了承ください。

(事務局長)

### 審議事項に関するご意見

#### 【審議事項 1：2021 年度決算】 & 【審議事項 2：2023 年度予算】

##### <意見 1>

単年度で見ると、2021 年度決算は約 170 万、2022 年度予算は約 70 万、2023 年度予算は約 34 万円の赤字です。これらの赤字には繰越金を食いつぶしていることになります。現行では、繰越金がやや多いようですが、将来的には、単年度収入に見合う単年度支出を組むべきだと思います。

##### 回答：

貴重なご意見ありがとうございます。ご指摘の問題は事務局も認識しており、改善に向けて取り組んでおります。具体的な改善案については、今後の総会等で提案させていただきたいと思っております。ご理解・ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

#### 【審議事項 5：内田奨学賞規定第 2 条の改定】

##### <意見 2>

内田賞は現行では応募者が限られてしまうので改定案に大賛成。

##### 回答：

ご意見ありがとうございました。

##### <意見 3>

日本で鳥類の研究を本職とする方はもともと少ない。アマチュア対象であれば現行のままで良いのではないか。

##### 回答：

ご意見ありがとうございます。これまでの規定では、鳥学に関連しない分野の学位を持っていると、アマチュアであっても応募できませんでした。改定により応募可能なアマチュアの範囲が拡大され、鳥学の発展に寄与することを期待しています。

#### 【審議事項 6：基金運用規定第 5 条と第 10 条の改定】

##### <意見 4>

古い基金は金利があることを見込んで事業展開を考えていたと思いますが、昨今の金利ゼロ政策下と実

情が合わなくなっていることに対応することは、やむを得ない措置と考えます。しかし、原資に手をつけると、いずれ基金自体が運用できなくなる事態が想定されます。現在のように、通常会計の繰越金が潤沢にある段階で、基金の事業を通常会計からも支援するなど、基金事業の運営方法について、中長期的な戦略をご検討ください。

**回答：**

ご意見をありがとうございます。改定の最大の目的は、中村基金および岡田基金では覚書きで元本活用が謳われており規定と齟齬が生じている点を解消することにあります。現在の財政状況が維持されれば、少なくとも数十年は他の基金の元本を利用することなく特別会計を運用可能な見通しです。ご提案の通り、その間に一般会計と特別会計の連携について検討していきます。

**【審議事項 8：風力発電の導入についての日本鳥学会の基本的な考え方】**

**<意見 5>**

風力発電に限らず、兵庫県では多数あるため池に太陽光パネルを浮かべて発電するなど、水辺の生態系に悪影響を及ぼすと考えられる太陽光発電や、今後次々と開発されるであろう様々な自然エネルギー獲得のための手段の一部は、決して自然にやさしくないということを、広く一般市民に知らせ啓蒙する必要があると思います。鳥学会単独ではなく、他の生物系学会との連携も検討して、マスコミを使った情報提供をしていくと良いと思います。

**回答：**

ご意見ありがとうございます。日本鳥学会鳥類保護委員会内に風力発電をはじめとする自然エネルギー関連施設計画に特化した「風力発電等対応ワーキンググループ」が設立されました。今後、風力発電以外の自然エネルギーに関する情報発信も行っていく可能性があります。報道メディアを活用した広報についても今後検討いたします。

**<意見 6>**

風力発電導入への学会の基本的な考え方は必要だと思います。加えてメガソーラーに対する基本的考え方も早急に必要と思っています。見方を変えれば、風力は、周りの環境をいくらか残します。しかしメガソーラー導入は、すべての生物の生息地を破壊し何も残りません。起伏があつて多様な環境が保たれていた所が、まっ平になってすべての生物に影響し、ひいては天候や気候にも影響を及ぼしているように感じます。まったく自然に優しい再生エネルギーではないと感じます。自然に配慮できない場合は中止もやむなしです。

**回答：**

ご意見ありがとうございます。日本鳥学会鳥類保護委員会内に風力発電をはじめとする自然エネルギー関連施設計画に特化した「風力発電等対応ワーキンググループ」が設立されました。今後、風力発電以外の自然エネルギーに関する情報発信も行っていく可能性があります。

**<意見 7>**

風力発電の導入についての日本鳥学会の基本的な考え方は「承認」したが、どちらを選ぶにしても、後

10年、20年単位で考えると、難しい問題である。

**回答：**

ご意見ありがとうございます。「基本的考え方」で示しているとおおり、日本鳥学会は「生物多様性保全をはかりつつ温室効果ガス排出削減を達成する」ことが重要であると考えています。長期的なビジョンも踏まえつつ情報発信していきます。

#### <意見 8>

風力発電およびメガソーラー（太陽光発電）の問題は今後益々重要になってくると思いますので、鳥学会の方向性を大いに支持いたします。

**回答：**

ご意見ありがとうございます。日本鳥学会鳥類保護委員会内に風力発電をはじめとする自然エネルギー関連施設計画に特化した「風力発電等対応ワーキンググループ」が設立されました。今後、風力発電以外の自然エネルギーに関する情報発信も行っていく可能性があります。

#### <意見 9>

対大規模風車基地に関してはゾーニングによる保護エリアの策定、法制化、環境省は他の省庁や議員をおそれず、鳥学会は保護行政と共に鳥類を未来に残すことが必要と思われます。行政はグリーンインフラに流されず正当化せず環境保全の上に立ち、その一部を人間が利用するという意識をもつことが大事である。学会には行政が逃げないよう監視していく必要もある。

**回答：**

ご意見ありがとうございます。今後、行政に対しても積極的に情報発信できればと考えております。

#### <意見 10>

日本鳥学会が風力発電の導入について基本的な考え方を示すことは重要ですが、対外発信の方法についても十分に検討していただければと思います。世の中一般には風力発電による鳥類への影響についてほとんど知られていないので、他の学会とも連携しつつ風力発電の負の影響についても広く認識されるようにコミュニケーションの内容と手法を工夫していただけないでしょうか。メディア対応はもとより、最近では金融機関をはじめ経済界の一部でも生物多様性に関する関心が高まっていますので、例えば関連省庁・団体へのレクチャーなども効果的だと思われます。

**回答：**

ご意見ありがとうございます。今後、他学会との連携、報道メディアを活用した広報、企業や省庁への情報発信についても検討いたします。

#### <意見 11>

風力発電を計画する側の立場ではありませんが、再生可能エネルギーの利用を計画する方々も、科学的根拠にもとづいたデータによって計画を実現させたいと考えている人がいると思います。科学的にいいと推奨する調査方法や利用可能なデータなど学会として示してくださることを望んでいるのではないでし

うか。せめてこの程度の質と量（期間や規模）で定量的な調査を行わないと判断が難しいなど、参考になる論文を示すなども大切です。

**回答：**

ご意見ありがとうございます。風力発電等対応ワーキンググループでは、今後、鳥類研究者、行政あるいは電力事業者向けの鳥類影響評価に関する指針の策定を予定しています。ご指摘の内容は指針の中で示していきたいと考えています。

#### <意見 12>

反原発運動してきた立場から、すべての「風力発電」に反対するのには異論があります。鳥類を含めた生物多様性と自然エネルギー利用の共存の道で探るべき、開発すべきと思っています。この立場までが否定されるのであれば、学会としては行きすぎではないでしょうか。

**回答：**

ご意見ありがとうございます。「基本的考え方」で示しているとおおり、日本鳥学会は「生物多様性保全をはかりつつ温室効果ガス排出削減を達成する」ことが重要であると考えています。

#### <意見 13>

「風力発電の導入についての日本鳥学会の基本的な考え方」を社会に向けて示すこと自体には賛成。文案に関して【風力発電の導入についての基本的な考え方に関するご意見の概要】を読むとまだ学会内の意見が集約できていない様に思われる。"

**回答：**

ご意見ありがとうございます。文案については皆様からいただきましたご意見を参考に今後微修正することを検討しております。

#### <意見 14>

内容ではないですが、「風力～考え方」の文書案において、すすめる、ふくむ、かぎり、は漢字記載が良いのではと思いました。公文書のかなルールなのかも知れませんが、出来る→できる、及び→および、はともかく、すすめる・ふくむ・かぎり、は漢字が一般的と個人的に思ったので。ちゃんと調べたわけではありません。一読して平仮名表記に違和感があったのでコメントしました。

**回答：**

ご意見ありがとうございます。文言や表記については皆様からいただきましたご意見を参考に、微修正することを検討しております。

#### <意見 15>

鳥学会ですので、鳥を中心に考えるのは当然ですが、生態系の中の一鳥類という大局的な視点が大切です。

**回答：**

貴重なご意見ありがとうございます。

### <意見 16>

学会として、風力発電建設にむけての姿勢を明確にすることは、理解しました。風力発電については、個人的にも思うところ、迷うところがあります。今回の Web 表決では、保留とか、白票という選択肢がありません。やむを得ず、否認にチェックを入れましたが、白票という意味にさせてください（承認も否認もしません）。

#### 回答：

書面回答では各審議事項の表決を未記入にすることで白票という選択が可能でしたが、web 表決は白票を投じることができない設定でした。審議事項 8 に関する貴殿の「否認」を白票として集計させて頂きました。

### 【審議事項 9：日本鳥学会の法人への移行】

### <意見 17>

公益社団法人は「設置へのハードルが高く、監督官庁への報告義務など移行後の事務作業が煩雑になる」とのことですが、原則非課税というのは大きな魅力です。公益社団法人なることで免れる税の額が十分に大きく、設置や移行後の事務作業の労力をカバーできるものであれば、はじめから公益社団法人を目指すということもあり得るのかなと思いました。その判断のためにも、一般社団法人になると発生する課税額を示してもらいたいと思います。

#### 回答：

公益認定を受けるためには、最初に一般法人になる必要があります。まずは一般法人をめざし、そののち、公益認定をうけて公益法人になるかどうか議論できればと考えています。その際に重要なポイントのひとつは課税です。一般法人を運営していく中で課税額が明らかになると思われます。将来的にその課税額と事務作業量を勘案して、検討していくこととしたいと考えています。

### <意見 18>

昨今の世情をうけて、鳥学会の法人化については、一定の理解をしています。ただし、法人化については、かなり難しい法律の解釈が伴うことでもあり、現行の鳥学会の役員だけで検討することには限界があると思います。有償であっても、弁護士などの法律の専門家に依頼して、多角的な方面から検討して、間違いのない方向性を探ってください。また、医療の世界ではセカンドオピニオンがあるように、法人化についても、複数の法律の専門家の意見を聞くことも視野に入れてください。2023 年度予算には、これらの予算が計上されていませんが、来年度の総会で、補正予算を提案することも視野に入れて、ご検討ください。

#### 回答：

法律に詳しい学会員を加えた法人化検討グループを会長のもとに組織し、さらに専門の会計士に精査していきながら、慎重にすすめたいと思います。法人移行は承認されました。今後、専門の会計士の精査やその他の手続き分を補正予算として提案させていただくこととしています。

### <意見 19>

一般社団法人化に際して社員総会（代議員会）での決定となる点について、審議内容（場の雰囲気を含め）がクローズになることが懸念される（会員への伝達が結果ありきに概略的なものになる）。現行の総会その他に見られるような当学会のオープンな気風や審議プロセスを含めた情報公開が損なわれないようご配慮いただきたい。

#### 回答：

これまでどおり、会員からの意見を各種委員会や評議員会でいただくと同時に、大会時の総会に代わるものとして意見交換会を実施して、会員からの意見を幅広くいただく機会を設けたいと思います。ただし、代議員会を設置する形の一般社団法人にするかどうかは、今後の法人化検討グループで議論することを申し添えます。

### <意見 20>

一般 or 公益による法人化に伴う税金等も考慮に入れ最終決定すべき。

#### 回答：

<意見 17>に関連しますが、まずは一般法人として運営し、課税額や事務作業量などを勘案して方向性を検討していきたいと考えております。

### <意見 21>

社団法人になった場合についてですが、全員参加の総会がなくなると会員の意思表示の場が減ってしまいます。意見交換会があるとは言え、全会員が持っていた議決権がなくなることによって民主的な仕組みが低下すると思います。そこで、社団の評議委員の一部を全会員から抽選で選んではどうでしょうか。評議委員は職業研究者に偏りがちになるので、より幅広い会員に開かれた仕組みにならないかなという意図なのですが。また、この意図とは別ですが、いつも同じ人たちに評議委員の仕事を押しつけることの解消にもなるかなと思います。

#### 回答：

これまでどおり、会員からの意見を各種委員会や評議員会でいただくと同時に、大会時の総会に代わるものとして意見交換会を実施して、会員からの意見を幅広くいただく機会を設けたいと思います。ただし、代議員会を設置する形の一般社団法人にするかどうかは、今後の法人化検討グループで議論することを申し添えます。また、評議員の選任の仕方は今後の検討課題とさせていただきます。

### <意見 22>

法人化については他の主要な学会が軒並み移行していること、任意団体であれば学会(団体)として口座も開設できないということなどを考えれば法人化は必要だと感じている。できれば年会費等会員への負担は最小限にお願いしたいと思います。

#### 回答：

紙媒体をできるだけなくす方向で検討するなど、学会運営の効率化を図り、会費をできるだけ値上げせずに法人運営に必要な経費を賄えないか検討しています。

### <意見 23>

保護活動のためにも「公益」をめざすべき。

#### 回答：

公益認定を受けるためには、最初に一般法人になる必要があります。まずは一般法人をめざし、そののち、公益認定をうけて公益法人になるかどうか議論できればと考えています。その際に重要なポイントのひとつは課税です。一般法人を運営していく中で課税額が明らかになると思われます。将来的にその課税額と事務作業量を勘案して、検討していくこととしたいと考えています。また、公益法人は一般法人とは異なり、行政庁の厳しい審査を通過し、かつ公益法人となってからも監督官庁への報告義務などが課されます。一般法人より社会的信用度が高いことから、そうした肩書の方が保護活動（たとえば意見書の提出）によいとお考えのことと推測いたします。このことも一般法人になった後の方向性を考える論点のひとつとして、今後の検討とさせていただきます。

### その他のご意見

### <意見 24>

新型コロナワクチン接種の感染予防効果が未だに科学的に証明されていない状況であるし（むしろ感染を拡大するという論文も多数ある）、日本ではワクチン接種は任意とされているにも関わらず、2022 年度大会への参加条件として、接種証明書を提示しなければならないことは、ワクチン接種をしないという基本的人権を無視した暴挙であり、学術団体である鳥学会の科学を探究するという姿勢とは真逆の行為であると言わざるを得ない。

#### 回答：

日本鳥学会 2022 年度大会を東京農業大学北海道オホーツクキャンパスおよび網走市民会館で現地開催するにあたっては、大学と網走市の双方に学会としての感染対策をお示しして承諾を得る必要があったことから、鳥学会大会実行員会で協議を重ねて大会参加条件をつけることになりました。ワクチン接種証明、または PCR もしくは抗原検査による検査結果の提示を参加条件としたのは、全国各地から人が集まるイベントを網走市で実施することから、市の考え方に準拠した感染対策を本大会でも実施する必要があると考えたことが主な理由となります。たとえば、同様に全国から人の集まる網走市のイベント、オホーツク網走マラソン 2022 の感染症対策 <https://www.abashiri-marathon.jp/> をご参照ください。会員の皆様にご不便をおかけした面があったかと思いますが、何卒ご理解いただけると幸いです。

### <意見 25>

会誌がプラスチックの封筒に入って送られてきます。今の世に中、少しでも地球環境という問題意識があれば、これはあり得ない。鳥学を牽引し、環境改善にも指導的に取り組むべき日本鳥学会がこのようでは、怠慢と無責任の誹りは免れ得ない。送付する側は不作為で、受けて側は無感覚で、ともにプラスチックゴミ増加に加担し続けている。こんなことでいいわけがない。

#### 回答：

ご意見ありがとうございます。環境に配慮した封筒の使用を検討させていただきます。

**<意見 26>**

「空飛ぶ車」にも意見していただきたいです。人間の慢心で、他の生物（野鳥）の生活圏に侵入するのはやめて欲しいと思っています。元々、鳥は地上の生物（人間、その他）と重ならない生活圏（空）で生きることで、うまく私達と共存してきたのだから。

**回答：**

時代の先を読む視点からのご意見ありがとうございます。今後の動向を注視していきます。

**<意見 27>**

事務局や大会運営など、ボランティアでの運用が多すぎるのではないかと感じます。少子化時代で若手の数は必ず減ります。ボランティアで引き受けるにも限界があると思うので、特定のメンバーにしわ寄せがいくことのないように早め早めに改革を進めてほしい。また、省資源化のために総会や学会誌・大会申し込み等のペーパーレス化やクレジット決済、web 申し込みの導入も進めてもらいたいです。

**回答：**

学会運営に関する貴重なご意見ありがとうございます。ご指摘の問題は事務局でも認識しておりまして、紙資源の省力化のように具体的な検討を進めているものもあります。ただ、ボランティアでの運用が多い問題の改善などについては、今後さらに検討が必要な課題も多いと認識しております。ボランティアでの運用の改善や省資源化に引き続き取り組んでいきたいと思っております。